

新発見！カヌーから見る釧路湿原 活動報告書

7月20日（土）11名のこどもレンジャーがイベントに参加してくれました！
真夏の塘路湖、レイクサイドとうろでカヌー乗船体験会を行いました。イベント当日は雨の予報でしたが、ときどき真夏の太陽が雲の中から顔を出しジリジリと照り付ける瞬間もあり、カヌーを漕ぎながら釧路湿原の自然について学ぶことができました。

- ① 開会式の様子 レンジャーのみなさんに自己紹介をしてもらいました。その後、レイクサイドとうろの土佐さんにイベントが楽しく安全に行えるよう注意事項をお話いただきました。



- ② カヌーに乗る前にライフジャケットを着ました。ライフジャケットのベルトをしっかりとしないと、水中でスポッと抜けてしまうと命に係わるなど説明を受けました。



- ③ ライフジャケットを着けてカヌー発着場へ降りていきました。
次に土佐さんからパドルの持ち方や漕ぎ方を教えてもらいました。



- ④ みんなでカヌーの前で集合写真を撮りました。今回は、3艘のカヌーに分乗して、レイクサイドとうろから塘路湖へ、そしてアレキナイ川を下り、釧路川口まで行きます。そこでUターンして川を溯り、レイクサイドとうろへ戻ってくる約1時間の体験です。





⑤ 塘路湖の中ほどへ進んでいくと、葉や花が水面をおおっている箇所がありました。インストラクターからその浮かんでいるのは「ヒシ」で、その葉の中から黒い塊を拾い上げてくれました。その黒い塊は「ヒシの実」で忍者の「投げビシ」のもとになったと言われているものだと説明してくれました。



- ⑥ 塘路湖を出たところの橋の下をくぐり、アレキナイ川へと漕いでいきました。途中、川が行き止まりのように見えたのですが、漕いで行くと川が右側に続いていました。川が蛇行していることを漕ぎながら感じることができました。



- ⑦ 親子連れのカモや、水を飲みにやってくるシカの足跡、写真にとらえることはできませんでしたが、アシの影にシラサギの姿もちらっと見る事ができました。その他、ヒバリの鳴き声やオジロワシ、トビ、エゾシカも観察することができました。







- ⑧ 体験終了後、こどもレンジャーのみなさんから、いろいろな動物を見たり鳴き声を聴いたりすることができた、川から釧路湿原の幻想的な景色を見ることができた、自然や川の流れることができた、カヌーを力強く漕いでスピードが出たのが楽しかった、等感想をいただきました。最後に今回のカヌー体験を通しての質問をいただき、土佐さんにお答えいただきました。

【質問内容】

- 川が流れているはずだけど、流れをあまり感じなかった。
- 今年は雨が少なく水量が少ないものがあるが、元々高低差が少ない釧路湿原を川が蛇行して流れるため、水の流れはゆっくりとなる。本日の体験では、行きは川を下り、帰りは川を上っていたのですが、どちらが下りかもわからないぐらいの流れだった。流れが少ないため、水による浸食も少なくなる。
- 「マキビシ」のようなものはなんの植物の種なのか？
- 「ヒシ」の実といって、カヌーで通った時に水草に白い小さな花が咲いていて、その葉の裏に緑色の実がなる。黒くてトゲトゲした実は昨年の実で、今年の実はまだできていない。新しい実は食べることができて、ゆでて食べると栗のような食感をしている。
「マキビシ」の元になったと言われており、踏むと靴の裏に刺さるぐらい硬い。
アイヌ語では「ペカンペ」といい、アイヌの方は秋にこの実を収穫して冬場の保存食として食べていた。
- 塘路湖の川はアレキナイ川だけなのか？
- 塘路湖から出ていく川はアレキナイ川のみ。塘路湖に入ってくる川はたくさんあり、入ってくる川にもアレキナイ川（レイクサイドとうろから湖へ向かって右の奥）がある。昔、塘路湖の辺りは海で、海から湿原に変わっていく過程で川や沼にも変化していた。塘路湖は東西に長い湖であり、元々は1本の川だったのではないかと、という説があり、塘路湖に入ってきている川と出ていく川が同じアレキナイ川になっている。
- アレキナイ川は海に繋がっているのか？
- 今日下ったアレキナイ川をずっと下ると釧路川に合流して、その後釧路川を下ると海に繋がる。秋になると塘路湖にも鮭が上ってくる。



- ⑨ カヌーでの塘路湖、釧路湿原の中を曲がりくねって流れているアレキナイ川を十分楽しむことができた一日となりました。
また、なぜカヌーで川を上ることができるか？釧路湿原の特徴を考え、釧路湿原の自然や野生動物も観察することができました。
- ⑩ 参加してくれたこどもレンジャーの皆様、ご協力いただいた保護者の皆様、レイクサイドとうろのインストラクターの皆様、ありがとうございました。

